

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600139		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム いっは		
所在地	山口県山陽小野田市住吉本町二丁目7番20号		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町受理日	平成27年7月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様それぞれに個性ある性格や別々の人生観があり、趣味や生活に対する満足度は違うと思います。自ら何かをしたいと思う前向きな意欲を引き出させていただくために利用者様の事を理解・生活歴を知る努力を行い、利用者様が自分らしく、また心豊かな生活を送っていただくことが出来ますようにと考えています。 近隣の『須江小学校』の児童と交流を図ったり、毎年5月に開催される『住吉まつり』には『いっは』の駐車場を会場の一部として提供しております。ことしは『いっは』からもフリーマーケットを出させていただきます。隣接している『龍遊館』にも利用者様の作った作品を展示させていただき、地域の方に見ていただいています。これらの事によって地域の皆様とも馴染みの関係を築かせていただけてると思っております。利用者様には、地域の方の暖かい見守りを受けながら、ゆっくりと心穏やかに過ごしていただいています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が事業所の中だけで過ごさずに、短時間でも戸外に出かけられるようにと、隣接の喫茶店の協力も得て、利用者と職員と一緒に珈琲を飲みに行かれたり、ミニコンサートを楽しまれたり、利用者の壁画の作品を展示してもらうなど、地域の中で生き生きと過ごせるよう支援に努められておられます。親戚の人や友人などの来訪がある他、職員と一緒に自宅訪問や自宅周辺のドライブ、電話や年賀状での交流を支援しておられる他、家族の協力を得て、昔から利用している美容院に行かれたり、墓参り、法事に出席されるなど、利用者が馴染みの人や場との関係を続けられるよう支援されています。職員は、内部研修で接遇について学んでおられ、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしておられ、理念にある「穏やかな生活」を大切にされ、りょうしやがゆったりと穏やかに過ごせるように支援に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事業所の理念として、毎朝申し送り時に唱和しており、職員全員で理念に基づいたケアを行うことが出来ますよう努めています	法人の理念を事業所の理念とし、事業所内に掲示している。職員全員で話し合い、理念を共有して実践につなげている。今年度は理念にある「穏やかな生活の提供」を重点的に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	龍遊館を通して地域と交流を図っています。1年に1回開催される『住吉まつり』には事業所一体となり協賛しております	自治会に加入し、地域行事の住吉祭りには事業所としてフリーマーケットを出店し、利用者は地域の人達と交流している。隣接の喫茶店に利用者の壁面工作を展示してもらっている他、ミニコンサートや珈琲を飲みに出かけて地域の人と交流している。ボランティア(手話、日本舞踊、コーラス、フラダンス、ハーモニカ演奏)の来訪がある。地元の小学校の学校田で収穫した新米の差し入れがある。散歩時には地域の人と挨拶をするなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいています『自治会長』『家族様』を通じて、地域の方々へ、認知症の理解と支援の協力をお願いしています			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受けることにて、理念に沿ったケアが出来ているかを顧みることができ、良い方向へと改善していけるよう努めています	管理者は評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を新人職員以外の職員に配布し、項目毎に記入したものを管理者がまとめている。評価の意義等を全職員が理解するまでには至っていない。前回の評価結果を受けて、利用者の思いの把握や応急手当や初期対応の定期的訓練の実施などについて、取り組んでいる。	・全職員での自己評価の取り組み ・評価の意義の理解	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の利用状況やご利用者様の生活の様子を報告しています。そこで出た意見や助言を職員へ報告し、より良いサービスの向上ができるよう努めています	2ヶ月に1回開催し、利用者状況、活動予定と報告、職員研修報告、防災訓練、避難訓練、栄養士による食事についての説明、外部評価結果等について報告し、話し合いをしている。会議の中で、食事会を実施したり、テーマ(感染症と腸内環境、給食の取り組み、認知症についてなど)を決めて勉強会をしているなど工夫している。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より密に連絡・相談を行い、助言や指導をいただいています。また、運営推進会議に参加していただき、ケアサービスの状況を報告しています	市担当課とは運営推進会議の他、管理者が事故報告や更新申請時に出向いて相談し助言を得たり、電話やメールで情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、困難事例について相談をしたり、利用状況について情報交換をしているなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を利用して『身体拘束をしないケア』を職員全員で確認しています。GH出入口のドアはすべて解放しています	ミーティング時に事例検討をして、職員間で話し合い抑制や拘束をしないケアに努めている。玄関は施錠をしないで、外出をしたい利用者とは一緒に出かけるなど工夫をしている。スピーチロックについて、気になる場合は管理者が指導している他、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を利用して何が虐待となるのか、なぜ虐待がいけないのかを繰り返し職員全員で確認しております		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名の利用者様が『成年後見制度』を利用されております。職員全員で必要性を理解しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・家族様に十分に納得・理解していただけるまで、丁寧に説明察せていただいています		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情に対する『窓口』を設置しており、またご家族様来苑時には「何かご意見、ご要望はありますか」と声を掛けさせていただいています。問題があった際には上司へ報告し、速やかに対応させていただいています	相談、苦情の受付体制、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。事業所だよりを家族に送付して利用者の様子を伝えたり、面会時や運営推進会議時、体調不良等での電話連絡時などで、家族の意見や要望を聞いているが、家族からの意見や要望を聞く機会が十分とは言えない。	・家族の意見を表せる機会の検討
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見には常に耳を傾けています。また1回／2ヶ月 主任・管理者会議を行っており、その際にも職員からの改善案、要望を話し合っており、職場環境の改善に努めています	月1回のミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞く機会を設けている。職員の意見や提案は施設長を通じて代表者に報告し、検討している。外出機会を増やす提案や職員の増員についての意見があり、検討している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間を設け、職員一人ひとりの声を聴けるように努めています。また自ら向上心を持ち、行動を起こすことが出来る職員となれるよう指導に努めています		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回／月 の職員研修等を利用して、社外より業者を招いて研修を行っています。またさまざまな研修の案内を配布し、研修への参加を呼び掛けています	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をしている。法人研修は、年2回、脱水症、感染症の内容で実施し、全職員が参加している。内部研修は、月1回、緊急時の対応(意識喪失、骨折、誤嚥、転倒、脱水症、血圧異常等)と接遇について実施している。新人職員は、法人で対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡協議会へ参加しています。他施設との情報交換も密に行っており、研修・勉強会にも参加しております		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、家族・本人様と何度も面談し、これまでの暮らしについて話を伺い、聞き出せる様に努めている。またご本人様の不安や要望等についても傾聴しながら、安心した暮らしが出来るよう支援しています		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時から入居されるまで、困っている点、希望される内容等、十分に伺うようにしている。ご家族様からの不安や相談事には納得・理解していただけるまで丁寧に対応させていただいてます		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、事情を伺う中で、必要に応じて連携施設・他の事業所・施設等の説明も行い、本人様・家族様に選択していただくことができるよう努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事・レクレーション・体操を毎日職員と共に行うことで支え合う関係を築いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には電話や、月1回の手紙等で、本人様のご様子を報告しています。また本人様に関する相談事も密に行い、ともに本人様を支えていくことが出来る関係となれるよう努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の許可があれば面会は自由に行っていると思います。また本人様にも行きたいところはないか、会いたい人はいないかを聞き、可能な限り叶えて差し上げることが出来るよう努めています	親戚の人や友人の来訪がある他、自宅訪問、自宅周辺のドライブ、電話や年賀状などの支援をしている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や法事への出席、墓参り、外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション・おやつ・ティータイムなど、利用者様同士の交流時間を多く作ることが出来るよう心掛けています。また職員は互いの関係に配慮し、フロア内での座席配置も考慮しています		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	『いつは』に入所された方とのご縁を大切に、退去後も家族様より要望・相談があれば応じています。家族様の支えとなれるよう努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を主として、ご利用者様の要望を聞き取るようにしています。家族様とも相談しながら、極力希望に沿った生活をしていただくことが出来ますよう努めています	入居時のアセスメントで家族からの情報や生活歴を把握し、基本情報に記録している。日常の関わりの中で利用者の言葉や行動等を介護記録や申し送りノートに記録して、思いや意向の把握に努めているが、アセスメントの様式や利用者の思いの把握方法は充分とはいえない。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	・思いや意向の把握方法の検討
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様・本人様より生活歴を聞き取り、その情報を基にして個々のサービスに取り込んでいます		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の発する言葉・行動・バイタル等より本人様の状態を把握し、担当者・家族様と相談し、現在の心理状態を把握することが出来ますよう努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様・他関係者と意見を交換し、現在のニーズに沿った介護計画書の作成に努めています。必要時にはカンファレンスを開き、利用者様の現状に即したケアを提供できるよう努めています	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3～6ヶ月毎の見直しをしている他、状態の変化や要望に応じて現状に即した新しい介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や利用者様申し送り簿、毎朝の申し送り時やカンファレンスにて、職員間で情報を把握・共有し、上司・担当者と相談し、介護計画書の見直しを行っています		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が自宅へ戻られる際、職員より送迎させていただくことがあります。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	『住吉まつり』に参加や、近隣の『公園』や『神社』などの公共施設を利用し、安全で落ち着いた環境の中、ゆっくりと安心して生活を楽しんでいただくことが出来ますよう支援しています		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の希望するかかりつけ医となっています。主治医を主として地域医療とも連携を図り、常に利用者様に適切な医療を受けていただくことが出来ますよう努めています	利用者や家族の希望する医療機関の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から、月2回の訪問診療があり、その他の医療機関の受診は家族の協力を得て支援している。受診時には情報を提供し、受診結果は電話で家族に伝えている他、カルテに記録し、職員は申し送りノートで共有している。緊急時の場合はかかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様との日々の関わりの中で、小さな変化も見逃すことなく、気づくことが出来るよう努めています。何かあれば速やかに看護師へ相談・報告し、指示を得ながら対応しています		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際には、可能な限りお見舞いに行かせていただいています。その中で病院関係者との信頼関係を築き、何かあった際には速やかに情報交換や相談に応じてもらうことが出来る関係を作れるよう努めています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に『利用者様の重度化及び看取り介護に関する指針』に沿って説明を行い、理解していただいています。ご家族様の思いに沿うことが出来ますよう話し合いを重ね、納得していただける支援が出来ますよう努めています	契約時に指針に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医、看護師等関係者で話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員会議や毎日の申し送り時に研修・確認を行っています。また事故を未然に防ぐことが出来るよう利用者様のリスク・環境のリスク・職員のリスクを把握し、改善することが出来るよう努めています	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、翌朝のミーティングで報告して、1週間後に担当職員が確認し、月1回の職員会議で再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時の備えとして、内部研修時に緊急時の対応(骨折、誤嚥、血圧異常、脱水症等)の訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・職員の緊急連絡網訓練を定期的に行っています。消防署よりの検査・指導も受けています。夜間帯での火災時のマニュアルは、毎日夜勤者申し送り時に行っています	年2回、事業所独自で昼夜想定火災時の避難訓練や消火訓練、通報訓練を実施している。運営推進会議で防災体制について話し合いをしているが、地域との協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言動を否定することなく丁寧な言葉かけを行っています。排泄や入浴の対応時には、恥ずかしいという思いに配慮しております。お部屋へ入室する際には必ずノックをし、挨拶は職員より行っています	内部研修で接遇について学び、職員は理解し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに注意するとともに、守秘義務について理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	高齢化が進み、寝たきりに近い方が多くなりましたが、飲み物や、食べたい物を聞き用意しています。また音楽の好きな方の部屋で、好まれる音楽をかけて差し上げています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、利用者様のペースに合わせた支援を行うことが出来るよう努めています		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院に来てもらい、利用者様に似合った髪型にカットしていただいています。季節に合った服を着ていただき、食べこぼしで汚れた衣類は速やかに更衣してもらっています		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べやすい形態にし、主食はふりかけご飯やお粥を用意しています。副菜の盛り付けは利用者様にしてもらっています。ランチマットの使用や、テーブルに花を飾り楽しい雰囲気になる様にしています	三食とも法人からの配食を利用し、利用者の状態に応じて事業所で形状の工夫をしている。利用者は盛り付け、ランチョマット拭き、テーブル拭き、配膳、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にしている。季節の行事食やおやつづくり(おはぎ、ぜんざい、カップケーキなど)、2ヶ月に1回の外食、珈琲を飲み喫茶店に行く、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は毎回チェックし、記録に残し必要量が取れているか気をつけています。むせ込みやすい利用者様には主食・副食を食べやすい形態にし、時には高カロリー飲料も使用し、家族様と相談しながら支援しています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間は義歯の方はポリドント消毒をしています。自らできる方は行っただき、出来ない方は職員にて口腔ケアを行っています		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて各利用者様の排泄パターンを確認しています。定時のトイレ誘導・声掛けを行いながら、紙パンツ・パッド等を外すことはできないか常に考えています	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無を毎日確認しています。排便困難な方には腹部や腰を温める・腹部のマッサージを行う。またヨーグルトや野菜ジュースを飲んでいただくなどの対応をしています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようにしています。一人ひとり声掛けを行い、納得していただいてより入っただいてます。入浴剤なども使用し、楽しんで入っただくことができるよう努めています	入浴は毎日、10時から12時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくりと入浴できるよう支援している。利用者の状態に応じてシャワー浴や清拭、足浴の支援をしている。入浴したくない人には、職員の交代や時間の変更、声かけの工夫をするなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意思にて入床していただいています。眠れない方には温かい飲み物を飲んでいただいたり、気持ちよく安眠していただくことができるよう支援しています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用されている薬は全職員にて把握しています。利用者様に変化が見られる時には服薬されている薬の副作用なのか、また今の状態の利用者様に合った薬を飲まれているのか…を医師に確認しながら支援しています		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化が進み、寝たきりに近い方が多くなりましたが、好みの嗜好品・好まれる歌・天気の良い日には車いすで近隣を散歩…等行っています。またゆっくりと時間はかかりますが、壁面工作を作成し、龍遊館や『住吉まつり』に展示しております	テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、チラシを見る、生け花、ぬり絵、壁画づくり、歌を歌う、かるた、トランプ、ボーリング、ボール遊び、風船バレー、口腔体操、ラジオ体操、ボランティア（ハーモニカ、フラダンス、日本舞踊、コーラス、手話）の来訪、地域の祭り、ミニコンサート、季節の行事、盛り付け、テーブル拭き、配膳、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在、殆んどの方が移動時に車椅子を必要とし、また寝たきりに近い方もいらっしゃるため、外へ出かけていくことが難しくなっていますが、家族様と相談し、極力本人様の希望をかなえて差し上げることが出来ますよう努めています	近隣の散歩、隣接の喫茶店、住吉神社、ペットショップ、花見(桜)、ドライブでの自宅訪問、焼野海岸などの他、家族の協力を得ての外泊、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は施設にて預かっていますが、家族様と外出される際にはお渡ししています。苑へ戻られてより財布の中身を職員と共に確認しております		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が望まれる際には、いつでも電話を利用していただいています。また盆・正月には必ず利用者様より家族の方へはがきを書いてもらっています		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただくことが出来ますよう、換気・温度・臭い・生活音に気をつけています。季節に合った壁面飾りや、季節の花を生けたり、また心が安らぐ小物を置いています。大窓より明るい日差しが入り、心落ち着く環境となっていると思われま	広くゆったりとしたリビングは、掃き出し窓からの陽ざしで明るく、畳のコーナーやソファで囲まれたテレビコーナー、広い食卓は利用者が思い思いに過ごせる居場所となっている。壁には季節の壁面飾りが飾っており、食卓には季節の花が活けてある。台所の職員と話しながら利用者が盛り付けや配膳をしている。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に利用者様の状態にあった空間となれるよう努めています。家具の移動や、座るテーブルの位置を変わっていただいたり、また時には居室でゆっくりと過ごしていただいたりと工夫しています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みのものや、愛着のあるものを持ち込んでいただき、ゆっくりとくつろぐことが出来るよう配慮しています	ダンス、ベッド、鏡台、椅子、テレビ、時計など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族の写真や誕生日の写真、カレンダーなど好みの物を飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方が多いため、動線に危険な物はないか、テーブルやソファの位置は適切か等常に意識し、利用者様の行動を制限することなく、安全に過ごしていただくことが出来るよう努めています		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームいつは

作成日：平成 27年 7 月 21 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	・全職員での自己評価の取り組み ・評価の意義の理解	・全職員で外部評価に取り組む ・全職員が外部評価の意義を理解できる	評価を行う前には「山口県地域密着型サービス評価項目ガイド集」や「山口介護サービス評価調査ネットワーク」を全職員にみてもらい、評価の意義の理解に努め、全職員で外部評価に取り組む	1年
2	5	・地域メンバーの拡大	地域の様々な職種の方や、また民生委員、福祉委員、学校関係等の方々にも運営推進会議に参加していただく	地域の自治会長、市の高齢障害課の方々にアドバイスをいただきながら、たくさんの地域の方々に参加していただけるよう努める	1年
3	11	・家族の意見を表せる機会の検討	家族の方が意見を出してくださることができる環境を整える	利用者様と職員とで行っていたイベントや、利用者様の誕生日等を利用して、家族様にも頻回に苑に来ていただける場を設け、利用者様に対する職員の関わり方等を見ていただく。助言、アドバイス。または相談に応じていただける環境を整える	1年
4	24	・思いや意向の把握方法の検討	刻々と変化していく利用者様、家族様の意向を把握することができる	③の家族様に来ていただくことによって、利用者様、家族様と共にカンファレンスを開くことができ、思いの把握や意向を聞き取ることができるよう努める	1年
5	35	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	全職員が不意に起こる利用者様の事故や、怪我に、落ち着いて、的確な対応を行うことができる	内部研修や、時には外部研修によって、繰り返し訓練を行っていく	1年
6	36	・地域との協力体制	自治会長を通じて、不意に起こるかもしれない災害に備え、地域の方々と協力して、共に避難訓練を行っていくことができる。	自治会長、民生委員、福祉員、また消防署の協力を得て、火災、水害、台風等の災害が起こった時の事を想定した避難訓練を行う事の重要性、また地域の皆様と協力して行わなければ意味がない事を理解していただけるよう努めてまいります。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。